

一年生を迎えよう 【高学年 4 - (6)】

- 学校行事と関連を図った取組み -

(1) 主題名 新たな校風をめざして〔 4 - (6)〕

(2) ねらい 自分たちの学校をよくしていこうとする心を育て、新たな校風をつくるために積極的に取り組む態度を養う。

(3) 資料名 「一年生を迎えよう」

(4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導 入	1 自分の思いを出す。	最高学年としてやってきたことはどんなことですか。	自分たちがやってきたという気持ちを出させる。
展 開	2 資料を読んで話し合う。	主人公たちは、どんな思いで、一年生を迎えていきましたか。 ・一年生が早く来ないかなとワクワクしている。 ・みんなが工夫をこらして一年生を迎えたい。 一年生やおかあさん・お父さん、そして先生たちから喜ばれて、主人公たちはどんな気持ちになりましたか。 ・自分たちで考えたことをほめられてうれしい。	やらされているのではなく、自分たちがやっているという気持ちを押さえる。 自分たちが行ったことが、周りの人たちにどう評価されているのかを想像する。
	3 先生の言葉かけから主人公の思いを考える。	・自分たちもうれしいし、みんなも喜んでくれた。 周りの先生から、「これからもずっとやってほしいね。」と言われた主人公はどんなことを思ったでしょうか。 ・自分たちが良いと思ったことをやっていきたい。	新しくやっていこうと思ったその思いを十分に引き出す。
	4 自分の生活を見つめる。	・みんなが喜んで生活できるように工夫していきたい。 あなたが高学年としてこれからやっていきたいことはなんですか。	ワークシートに記入し、発表する。
終 末	5 校長先生の話聞く。	・高学年が学校の要として活躍していくことが、多くの影響力を与えていくのです。	常に、高学年としての意識を持った行動が大切であることを気付かせていく。

一年生を迎えよう

四月、私たちは六年生になりました。高学年にもなると、とても忙しくなるのです。それは、入学式の準備があるから……。体育館では式場作り、机やいすを並べ、お花も並べます。一年生の教室飾りも私たちの仕事です。入学式の日には、始まるまでの時間はランチルームで待っている一年生が喜ぶように、本の読み聞かせもします。

一年生を祝福するかのように、朝の太陽も輝いています。今日は、まちにまつた入学式です。私の仕事は、体育館前の受付場所からランチルームまで、一年生を案内する役です。私たちは、学校の校門に立って、真新しい服装でやってくる一年生が来るのを今か今かと待っていました。

「ねえ ねえ、一年生がこの学校に入学して良かったなと思えるようなことをしようよ。」

と、わたしが言いました。

「それって、おもしろそう。」

と、みゆきさんが答えます。そして、

「どんなことをすれば一年生が喜ぶかしら。」

とみんなにたずねました。

「初めて学校に来る一年生に喜んでもらうには……。」

男子も入って来ました。

「僕は、体でこの気持ちを伝えていくぞ。」

「じゃあ、僕は自慢の大声で、『入学おめでとう』と言おう。」

「拍手をして、迎えようかな。」

それぞれが工夫をこらして、一年生を迎えることになりました。

いよいよ、一年生が緊張しながらお母さんやお父さんと一緒にやってきました。私たちは、拍手をしながら、大きな声で

「おめでとう。」

と言いました。びつくりしたのは、一年生だけではなく、一緒に来られたお母さんやお父さんです。とてもうれしそうな顔をしています。

「こんなに、すばらしい歓迎をしてくれるなんて……。」

と感謝の言葉を言われるお母さんもしました。

みんな思ってもみなかった私たちの歓迎に驚き、喜んでくれているようです。

周りの先生も、

「うれしくなっちゃうね。これからずっとやっていってほしいね。」

という言葉をかけてくださいました。

先輩の姿を見ていたたちが、高学年としてバトンを受け継いだ初めての行事。私たちが新しいことをやっていくことでみんなに喜ばれるんだと、その時、思いました。

私は何だかうれしくなって、一年生のもとへ走っていきました。

活用に生かすための実践報告

「一年生を迎えよう」

ができる。

1 主題の設定

4月当初，様々な行事が行われる。慌ただしいこの時期にどう主体的な自覚を伴う行動ができるかが重要となる。特に高学年になると学校全体のことを考えて動いていけるようになるためには，この時期の行事をどのように意味付けしていくかが重要である。

入学式を題材にしたこの教材を通して，自分たちが主役となって，やらされてするのではなく，自らが学校運営に喜びを持って行動することが大切であり，このことが新たな校風をつくることに繋がることに気付かせてきたい。そして，学校生活の様々な場面で児童自身が積極的に取り組んでいこうとする態度を養いたい。

2 指導過程の工夫

導入では，「最高学年としてやってきたことはどんなことですか。」という発問からスタートしていったが，一般的な行事を想起する場合が多い。日常的な取り組みがなされている場合は，行事以外の内容も出てくる。しかし，行事しか想起できない場合は，「日常活動の中や委員会活動でやっていることでもいいよ。」と出していくと，いろいろな発言が出てくる。

自分の生活を見つめさせるために，「あなたが高学年としてこれからやっていきたい事はなんですか。」と発問していく。その時に，ワークシートを用意し，理由を書かせ交流していくことを通して，児童の心の内面を充実させ，今後に向け意欲を持たせていくことができ，行動化へとつなげていくことができる。

児童の行動化につなげていくために，終末で校長先生に登場してもらった。校長先生に日常の児童の様子の中から高学年としての自覚や高学年への期待についての話を聞くことで，学校生活に生かしていくこと

3 発問の工夫

ねらいに迫る中心発問を「周りの先生から言われた『これからもやっていってほしいね。』という言葉聞いた主人公の思いを考えていくこと。」に設定した。この発問により，主人公たちの行動が正当に評価され，自ら主体的に行動することが大切であることに気付くことができると考えたからである。

4 児童の反応（授業後の感想）

- ・自分たちがやったことで，みんなに喜ばれてよかったなと思った。1年生も喜んでいと思う。
- ・新しく始めた1年生への読み聞かせが，私の学校の伝統になるよう，これからも続けていきたい。1年生が楽しみにしているから。1年生とNHKの英語学習番組を見ているけれども，英語の学習を1年生と一緒にやっていきたい。
- ・折り紙プレゼントや作文交換をこれからもやっていきたい。がんばったことを違う学年で交換することで，お互いが親しくなることができるから。

5 実践者からの一言

本気で行事に取り組んでいける児童と，自分の役目を自覚できない児童がいる場面が想定される。その時に，道徳学習で児童の内面に意味付けをしていくことで，何のためにしているのかという自覚を伴った行動へと変えていくことができる。道徳の授業を児童の生活に生かしていく取り組みがさらに必要になるものと考えている。

（旭小学校 山口幸造）